

日本文学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
日本文芸形成論特論Ⅰ	室生犀星の王朝小説	2	横溝 博	1	水曜5限
日本文芸形成論特論Ⅱ	物と事の表現史	2	佐倉 由泰	2	水曜2限
日本文芸形成論特論Ⅳ	日本における漢籍と漢文学	2	河野 貴美子	1	集中講義
日本文学総合演習Ⅰ	日本文学史の考究とその 論述	2	佐倉 由泰	1	火曜4限
日本文学総合演習Ⅱ	日本文学史の考究とその 論述	2	佐倉 由泰	2	火曜4限
日本古典文学研究演習Ⅰ	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	1	月曜4限
日本古典文学研究演習Ⅱ	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	1	月曜5限
日本古典文学研究演習Ⅲ	『平家物語』の表現形成	2	佐倉 由泰	1	木曜2限
日本古典文学研究演習Ⅳ	『平家物語』の表現形成	2	佐倉 由泰	2	木曜2限
日本近代文学研究演習Ⅰ	大正期の短編小説の研究	2	仁平 政人	1	水曜4限
日本近代文学研究演習Ⅱ	大正期の短編小説の研究	2	仁平 政人	2	水曜4限

科目名：日本文芸形成論特論Ⅰ

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：横溝 博

コード：LM13502, **科目ナンバリング：**LJS-LIT601J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：室生犀星の王朝小説

2・授業の目的と概要：室生犀星の王朝小説を原典の古典作品と読み比べることで、古典文学の世界を近代小説の翻案を通して学ぶ。授業の進め方としては、各回に指定されている犀星の王朝小説と原典となっている古典作品をあらかじめ精読し、教室では読書会形式をとることで、鑑賞を交えた批評を自由に述べてディスカッションしていく。教員はモデレーター役を務めるが、受講生全員が意見を述べ応答し合うインタラクティブな場を作り、継続的なテーマを発見していくことを目指す。

3. 学習の到達目標：・室生犀星の王朝小説を原典と読み比べることで、それぞれのテキストの世界観の相違について学ぶ。
・原典となった古典作品の表現を学び、テキスト読解の方法を身につける。
・王朝小説における古典作品の翻案のありようについて学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

室生犀星の王朝小説のうち、原典が特定される作品を輪読する。授業は対話的に行い、質疑応答をメインとしながら、王朝小説および古典作品への理解を深めていく。また、作品の初出誌や収録された単行本についても目配りすることで、作品が発表された当時の社会状況や掲載されたメディアとの関係性についても学んでいく。(以下の進度および作品は例です。実際は受講者の希望によってテキストを選択します。『かげろふの日記遺文』の輪読も候補となります。)

01. ガイダンス～授業の進めかた
02. 導入～室生犀星の王朝小説と古典作品
03. 「姫たちばな」(『大和物語』)
04. 「花桐」(『伊勢物語』)
05. 「巴」(『平家物語』)
06. 「筑紫日記」(『大和物語』)
07. 「あやの君」(『大和物語』)
08. 「狩衣」(『大和物語』)
09. 「萩吹く歌」(『大和物語』)
10. 「津の国人」(『大和物語』)
11. 「津の国人」(『大和物語』)
12. 「虫姫日記」(「虫めづる姫君」)
13. 「虫の章」(「虫めづる姫君」)
14. 「舌を噛み切った女―またはすて姫」
15. まとめ～王朝小説とは何か

5. 成績評価方法：授業への参加(出席・質疑応答)(60%)、期末レポート(40%)。

6. 教科書および参考書：【教科書】

室生朝子編『室生犀星全王朝物語 上下』(作品社、1982 年)

岩波文庫『犀星王朝小品集』(岩波書店、2017 年、第 8 刷)

【参考書】

三好達治他編『室生犀星全集』(全 12 巻、新潮社、1964-1968)

室生朝子、本多浩、星野晃一編『室生犀星文学年譜』(明治書院、1982)

大橋毅彦著『室生犀星への/からの地平』(若草書房、2000 年)

高瀬真理子著『室生犀星研究 小説的世界の生成と展開』(翰林書房、2006 年)

西田谷洋編『室生犀星王朝小説の世界』(一粒社、2012 年)

7. 授業時間外学習：【予習】指定された室生犀星の王朝小説を、その原典となっている古典作品とともに可能な限り精読する。
【復習】プロットを共有する他の王朝小説(授業時に補足説明します)を併せて読み、原典となった古典作品の他出(授業時に補足説明します)についても読むことで授業時の学習ポイントを明確にする。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本文芸形成論特論Ⅱ

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM23203, **科目ナンバリング：**LJS-LIT602J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：物と事の表現史

2・授業の目的と概要：演習形式を取り入れた授業を通して、世の中のさまざまな事物の表現の歴史を、文学的意味、文化的意味に注目して考究する。

3. 学習の到達目標：文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、洞察力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに
2. 物と事の表現史を考えるとということ
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業時の発表〔60%〕・授業への参加〔40%〕

6. 教科書および参考書：テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

7. 授業時間外学習：各回の授業で取り上げる作品、論考等をあらかじめ精読して授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、幅広く考察を深めて行くことが重要である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本文芸形成論特論Ⅳ

曜日・講時：集中講義

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：河野 貴美子

コード：LM98814, **科目ナンバリング：**LJS-LIT604J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本における漢籍と漢文学

2・授業の目的と概要：漢字漢文文化圏とのつながりから、日本文学の形成とその特徴について、通史的に概観する。授業では、大陸からもたらされた漢籍をはじめとする学術文化の状況や、日本においてそれらがいかに学ばれ摂取吸収されたのか、また、漢籍の刺激を通じて生み出された日本の言語、文学、書物のありようについて、いくつかのトピックを取り上げつつ考察していく。

3. 学習の到達目標：日本における漢籍と漢字漢文文化の受容や漢文学にかかわる基本的な事項について理解するとともに、漢籍や漢文学を研究する際に必要となる基本知識や方法を学び、身につけることを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション（本講義の目的と概要）
2. 日本に伝来した漢籍とその特徴 1：写本を中心に
3. 日本に伝来した漢籍とその特徴 2：版本を中心に
4. 目録学と書物の分類法 1：前近代
5. 目録学と書物の分類法 2：近現代
6. 上代の漢文学
7. 中古前期の漢文学
8. 中古後期の漢文学
9. 中世の漢文学
10. 近世の漢文学
11. 日本人の漢文学習 1：幼学書
12. 日本人の漢文学習 2：抄物
13. 空海の学問と漢文学
14. 菅原道真の学問と漢文学
15. 教場レポート

5. 成績評価方法：教場レポート 50%、授業への主体的な参加度 50%

6. 教科書および参考書：教場で適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：配付資料の事前読了を求めます。各回の予復習には 60 分程度かかると想定されます。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本文学総合演習 I

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：佐倉 由泰、横溝 博、仁平 政人

コード：LM12404, **科目ナンバリング：**LJS-LIT605J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本文学史の考究とその論述

2・授業の目的と概要：論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。

3. 学習の到達目標：日本文学を着実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

基本的に、対面授業のみにより(オンラインによる参加も可能)実施する。

1. ガイダンス
2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業における発表〔60%〕・授業への参加〔40%〕

6. 教科書および参考書：テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。もしくは発表者が Classroom にアップロードする。参考書は、随時紹介する。

7. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

この授業は I・II を連続して履修すること。

科目名：日本文学総合演習Ⅱ

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：佐倉 由泰、横溝 博、仁平 政人

コード：LM22405, **科目ナンバリング：**LJS-LIT606J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本文学史の考究とその論述

2・授業の目的と概要：論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。

3. 学習の到達目標：日本文学を着実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

基本的に、対面授業のみにより(オンラインによる参加も可能)実施する。

1. ガイダンス
2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業における発表〔60%〕・授業への参加〔40%〕

6. 教科書および参考書：テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。もしくは発表者が Classroom にアップロードする。参考書は、随時紹介する。

7. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅰ

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：横溝 博

コード：LM11402, 科目ナンバリング：LJS-LIT607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『源氏物語』の研究

2・授業の目的と概要：『源氏物語』「玉鬘」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

3. 学習の到達目標：『源氏物語』「玉鬘」巻を精読することで、(1)物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2)諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス(発表者及びローテーション決定)
2. 講義(「玉鬘」巻までの物語の流れ、第一部の構成、物語の人物について)
3. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

5. 成績評価方法：授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容〔60%〕、授業への参加(質疑応答を含む)〔40%〕

6. 教科書および参考書：【テキスト】岩波文庫『源氏物語(四) 玉鬘～真木柱』(岩波書店、2018 年)を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012 年)がある。その他、参考文献は随時紹介する。

7. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

- ・本演習は、5 時限目も連続して履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅱ

曜日・講時：月曜 5 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：横溝 博

コード：LM11503, **科目ナンバリング：**LJS-LIT608J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『源氏物語』の研究

2・授業の目的と概要：『源氏物語』「真木柱」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

3. 学習の到達目標：『源氏物語』「真木柱」巻を精読することで、(1)物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2)諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
2. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
3. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

5. 成績評価方法：授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容〔60%〕、授業への参加(質疑応答を含む)〔40%〕

6. 教科書および参考書：【テキスト】岩波文庫『源氏物語(四)玉鬘・真木柱』(岩波書店、2018 年)を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012 年)がある。その他、参考文献は随時紹介する。

7. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

- ・本演習は、4校時目から続けて履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅲ

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM14203, **科目ナンバリング：**LJS-LIT609J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『平家物語』の表現形成

2・授業の目的と概要：演習形式の授業を通して、『平家物語』の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかかわらせて考察する。

3. 学習の到達目標：文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 『平家物語』についての解説
- 2 『平家物語』についての解説
- 3 『平家物語』についての解説
- 4 『平家物語』についての解説
- 5 『平家物語』についての解説
- 6 『平家物語』についての解説
- 7 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 15 考察発表とそれにもとづく意見交換

5. 成績評価方法：授業時の発表およびレポート〔60%〕・授業への参加〔40%〕

6. 教科書および参考書：テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

7. 授業時間外学習：各回の授業で考察対象となる記述、表現をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

本演習のⅣも連続して履修すること。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅳ

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM24203, **科目ナンバリング：**LJS-LIT610J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『平家物語』の表現形成

2・授業の目的と概要：演習形式の授業を通して、『平家物語』の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかかわらせて考察する。

3. 学習の到達目標：文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 2 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 3 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 4 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 5 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 6 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 7 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 15 考察発表とそれにもとづく意見交換

5. 成績評価方法：授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

6. 教科書および参考書：テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

7. 授業時間外学習：各回の授業で考察対象となる記述、表現をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

本演習のⅢから連続して履修すること。

科目名：日本近代文学研究演習Ⅰ

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：仁平 政人

コード：LM13404, **科目ナンバリング：**LJS-LIT611J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：大正期の短編小説の研究

2・授業の目的と概要：この授業では、大正期（1912～1926）を中心として、1910～1920 年代に発表された多様な短篇小説について、文化的・社会的なコンテクストを視野に入れて分析し、その特性や意義を考察する。
受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をととして、小説の精緻な読解を試みる。

3. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
(2) 大正期の日本における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ガイダンス 2—大正期文学の諸問題
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

5. 成績評価方法：授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

6. 教科書および参考書：講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：授業で取り上げるテキストを、受講者全員が事前に時間をかけて精読しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

本演習はⅠ・Ⅱを連続で履修すること。

科目名：日本近代文学研究演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：仁平 政人

コード：LM23405, **科目ナンバリング：**LJS-LIT612J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：大正期の短編小説の研究

2・授業の目的と概要：この授業では、大正期（1912～1926）を中心として、1910～1920 年代に発表された多様な短篇小説について、文化的・社会的なコンテクストを視野に入れて分析し、その特性や意義を考察する。
受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をととして、小説の精緻な読解を試みる。

3. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
(2) 大正期の日本における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 担当者による口頭発表と討論
2. 担当者による口頭発表と討論
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

5. 成績評価方法：授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

6. 教科書および参考書：講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：授業で取り上げるテキストを、受講者全員が事前に時間をかけて精読しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

本演習はⅠ・Ⅱを連続で履修すること。